

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年5月16日

【評価実施概要】

事業所番号	1171100793
法人名	社会福祉法人元気村
事業所名	栗橋グループホームそよ風
所在地	〒349-1105 埼玉県北葛飾郡栗橋町大字小右衛門字道下951-5 (電話) 0480-55-2024
評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年5月15日

【情報提供票より】(19年12月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年6月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	13 人, 非常勤 5人, 常勤換算 15.2人

(2) 建物概要

建物構造	RC造り		
	2 階建ての	階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	27,000円 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (250,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	350 円	昼食	600 円
	夕食	450 円	おやつ	0 円
	または1日当たり1,400円			

(4) 利用者の概要(12月31日現在)

利用者人数	16 名	男性	2 名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	72 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	栗橋病院、小林医院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、静かな田園地帯に囲まれた中にあり、同法人の介護老人保健施設に併設されている。長年にわたる高齢者福祉への実績のうえに運営されているホームであり、基本理念である「寄り添う介護」を実践している。具体的には、利用者、家族からの意見や意向を聞きながら、利用者の思いを受け止め信頼関係づくりに努力している。月に1回を目標に、利用者個々の家族へ利用者の近況報告を送り、家族とのコミュニケーションを図っている。昨年には家族会も結成し、運営推進会議においても家族会の代表が参加している。職員の資質の向上に向けて、認知症のケアについての勉強会も予定しており、職員全員でケアの向上に努めている。併設の介護老人保健施設やすぐ前にある協力病院との連携を図りながら、利用者本位の介護を実践しているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題としては、確実な申し送り情報の伝達、すべての職員を対象とした会議の定期的開催、緊急時の手当の訓練等が挙げられていた。こうした課題に対して具体的に改善計画シートを作成し、職員と共に改善に取り組んでいる。確実な申し送りについては、必ず職員がサインをするようにしている。会議の開催や職員の研修についても取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価の作成については、職員と共に作成している。自己評価の調査内容や意義についても、職員に理解してもらえように対応している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議については、原則として3ヶ月に1回の割合で開催するように努めている。メンバーとしては、栗橋町地域包括支援センターの職員、地域の民生委員、第三者委員、家族会の代表、ホーム側の管理者や職員で構成されている。討議内容としては、ホームの概要や状況報告、運営推進会議の運営、緊急時の対応について検討している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族会を昨年9月に結成し、家族からの意見を運営に反映させるようにしており、家族会の代表が運営推進会議に参加している。利用者の近況報告を家族へ送っており、家族とのコミュニケーションを図りながら、家族が面会時に意見や苦情を言える雰囲気を作っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の自治会には加入していないが、日常的に散歩やドライブなどで近隣の人たちとの交流を図っている。地域の民生委員に運営推進会議のメンバーになってもらっており、地域のボランティアも受け入れている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時の理念を基にして、地域生活の支援や連携を盛り込んだ地域密着型サービスとしての独自の理念を作っている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時には必ず理念を伝え、申し送りやミーティングの時には職員で唱和することもある。日常の中で理念を確認し合い、個別ケアへ反映できるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会には加入していないが、日常的に散歩やドライブで外出した時には地域の人たちと交流を持つようになっている。地域のボランティアも受け入れており、地区の民生委員が運営推進会議のメンバーになっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果については、改善計画シートを作成し全職員で取り組んでいる。職員が評価の意義を理解しており、今回の自己評価についても職員と共に作成している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	原則としては3ヶ月に1回の割合で実施しており、ホームの状況や利用者の状況について話し合いを行っている。地域の民生委員や家族会の代表からの意見をサービス向上に活かすようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役所には代理申請やインフルエンザ予防接種に関する連絡などで随時相談しながら連携を図っており、地域密着型サービスとしてのサービスの質の向上につなげている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月に1回を目標に、家族へ利用者の近況報告を送っており、ホーム便りも発行している。家族との意思疎通を大切にしており、預かり金についても出納帳に領収書を添付し送っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	昨年の9月に家族会を結成しており、家族会の代表が運営推進会議のメンバーになっている。家族が管理者や職員に意見や苦情を言いやすい雰囲気を作り、家族からの意見や要望については、運営に反映させるようにしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	併施設や法人内での異動もあるが、異動や離職は最小限に抑えるように配慮している。異動や新しく入った職員には引き継ぎをしっかりと行い、異動の際は、利用者や家族にはホーム便り等で伝えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常的に人材育成につなげるように、ユニットリーダーやサブリーダーの研修、併施設合同での新入職員研修は実施しているが、内外の研修の機会が不足している状況である。		5月にはリーダーシップセミナーと認知症の理解についての研修も予定しており、今後は、計画的な研修の実施と外部研修への職員の参加が期待される。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域内でのグループホームとの交流はないが、埼玉県のグループホーム協会には加入している。近隣の居宅介護支援事業者や病院のワーカーとは連絡を取り合い、情報交換しながら連携を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者本人に安心していただけるように見学や体験入居も必要に応じて実施しており、家族の意向により一泊または二泊していただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の日常の中で利用者と一緒に過ごし、寄り添いながら対応している。利用者から教えてもらうことも多く、一方的に介護するという関係ではない。時には利用者から学んだり励まされることもあり、共に支え合う関係づくりに努めている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや希望を、日々の生活の中から汲み取る努力をしており、可能な限り思いや意向を実現できるように職員で検討し支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	包括的なアセスメントに基づいて、利用者や家族の意向を聞き、職員でカンファレンスを開いて、情報の共有を図りながら介護計画を作成している。また、利用者や家族の意向を反映できるように取り組んでいる。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態の変化に応じて随時対応ができるように、モニタリングをきちんと行っている。介護計画の見直しについては、本人や家族と話し合いながら行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通所や短期入所の指定は受けていないので、グループホームのみの機能の中で通院の支援等、状況に応じた対応をとっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者及び家族の希望を踏まえて、随時相談しながらかかりつけ医は決めている。専門医への受診については、医師や家族と相談しながら適切に受診支援をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合については、医師の指示や協力をいただきながら、家族への状況説明を行っている。終末期の対応についても、家族と話し合いながら対応方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に配慮して声かけは常にさりげなくを基本としており、声の大きさや言葉遣いに関しても日々プライバシーを損なわないようにしている。個人情報の取り扱いについても、ミーティング等で徹底できるように努めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、利用者一人ひとりのペースを大切にしている。利用者個々の体調や気分、希望に応じて、散歩や入浴等について柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態に応じて、簡単な料理の下ごしらえや配膳を一緒に行っている。日常的な献立や食材購入については、併設施設の管理栄養士との連携で行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせた入浴を実施しており、利用者の状態に合わせて個々のペースを大切にして、ゆったり楽しめるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の趣味を活かして、編み物や園芸、貼り絵等をしていただき、張り合いのある生活を支援している。歌を歌ったり、レクリエーションを実施して、楽しみを持てるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に応じて、散歩やドライブを随時実施しており、外の空気に触れるよう支援している。利用者個々の希望に合わせて、喫茶店や外出に出かける機会を作っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の外は、併設施設への出入りの車が多く危険であり、玄関内扉のみボタン操作としており、家族にも理解を得ている。利用者が外へ出る際は、職員と一緒に出るようにしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設の介護老人保健施設との合同で、年に2回消防訓練を実施している。また、避難誘導や消火器の使い方の訓練は定期的に行っている。地域との協力体制については、運営推進会議で呼びかけて検討中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスやカロリー計算は併設施設の管理栄養士が行っており、個々の食事量や水分のチェックはこまめに実施している。栄養補給や水分確保ができるように、常に話し合い工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は広くゆったりとしており、明るく清潔感があり快適な空間となっている。飾り棚には、利用者の作品や写真が飾っており、居心地の良い環境作りに努めている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望に応じて、利用者の使い慣れた馴染みのものや好みのもを持ち込んでもらうなど、利用者本人にとって居心地よく過ごせる環境づくりを家族と相談しながら支援している。		